

南ぬ風

Vol.18
2011.1~3
冬号



ふしぎがいっぱい

公園点描

海洋博公園

噴水広場

海洋博公園中央エリアにある噴水広場。この噴水はお客様に楽しんでいただけるよう、琉球民謡やポップスにあわせた噴水ショーが行われています。また、美ら海花まつりが開催される1月下旬～2月頃には、草花や観葉植物で彩られ、ジンベエザメやマンタ、ヤンバルクイナをかたどった花の造形物が来園者をお迎えます。

財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団広報誌

季刊誌 **南ぬ風** 冬号
Vol.18 2011.1~3

編集・発行/財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団

2011年1月発行

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888番地 TEL.0980-48-3645(代) FAX.0980-48-3900

(財) 海洋博覧会記念公園管理財団公式サイト kaiyohaku.jp

国営沖縄記念公園公式サイト oki-park.jp

【南ぬ風インタビュー】 情報発信に力を入れてもらいたい

——望まれる沖縄の海を守るための人材の確保と育成——
水産学博士 北海道大学名誉教授／仲谷一宏

《沖縄の色・形》 優雅な舞を引き立てる小道具／花笠と四つ竹



ふえー かじ

南ぬ風

誌名『南ぬ風 (ふえーぬかじ)』について
 「南ぬ風」は梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信することを意味しています。

C O N T E N T S

南ぬ風インタビュー Vol.11 3

情報発信に力を入れてもらいたい
 ——望まれる沖縄の海を守るための人材の確保と育成——
 北海道大学名誉教授 (水産学博士) / 仲谷 一宏



沖縄の色・形 6

優雅な舞を引き立てる小道具 花笠と四つ竹
 取材協力 / 仲嶺舞踊小道具店



事業紹介 8

公園の管理運営 遊覧車の園内ガイド
 遊覧車による園内散策を、海洋博公園の新しい魅力の一つに
 調査研究事業
 フウランの保護と活用 / 宝石サンゴ類の保全に関わる研究 / 人工尾びれの耐久テスト
 普及啓発事業
 平成22年度亜熱帯緑化事例発表会 / 美ら海自然教室「ホシズナの秘密を探る」 / 美ら島・美ら海こども工作室「花の風を作って揚げよう」 / ホエールウォッチング講習会 / ラジオ番組「風に吹かれて 首里城めぐり」



沖縄の自然 南の島の植物と動物たち 14

シリーズ沖縄の大木⑩ ヤブツバキ
 シリーズ沖縄の希少動植物⑩ ヤブミョウガラン / メガネモチノウオ

沖縄の民話 16

蚕の由来
 資料提供 / NPO法人沖縄伝承話資料センター



ニュース&イベント情報 (1月~3月) 18

総合研究センター、首里城公園管理センター、海洋博公園管理センター



ふしぎがいっぱい公園点描 20

海洋博公園 噴水広場



表紙について
 桜が満開
 名嘉睦稔 (なかぼくねん)
 一九五三年伊是名島生まれ。
 版画家、造形作家。月桃紙に裏手彩色と呼ばれる技法で制作される作品群は、われわれ現代人が見過ごしてしまいがちな大自然の機微、生きとし生けるものの魂の声を、時に優しく、時に力強く、私達に伝えてくれる。



サメの仲間
は約500種類

——まずはサメの研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。
仲谷 私は千葉県野田市の出身ですが、父親が釣りが好きで、小学校の低学年のころから盛んに釣りに連れていってもらって、釣りが好きになり、魚がすごく好きになったんですね。釣ったフナを横にすると目が下を向き、しかも、私の方

を見ているようで、その目が非常にかわいくて、一目惚れでしょうかね。中学、高校では他のことにも興味を持ったのですが、結局、魚の勉強をしたいということで北海道大学に入って、本格的に魚の勉強をすることになったわけです。
なぜサメを選んだかですが、私は水産動物学講座という魚や海の動物を研究する教室に籍を置いていました。卒業論文を書くときに、一緒に学んでいた6人の同級生の

南ぬ風 vol.11
Fe-nu-kaji Interview インタビュー

水産学博士
北海道大学名誉教授

仲谷 一宏

Kazuhiro Nakaya

中に女性が1人いて「サメを勉強したい」と言い出したんです。それで、そのときの教授に「サメは女の子1人じゃできない。仲谷、おまえもやれ」と言われたのが始まりでした。以来、サメをはじめ軟骨魚類を中心に研究を続けていますが、専門は系統分類学ということになります。
——サメにもいろんな種類がいます。と思いますが、どんなサメがいるのでしょうか。

情報発信に力を
入れてもらいたい

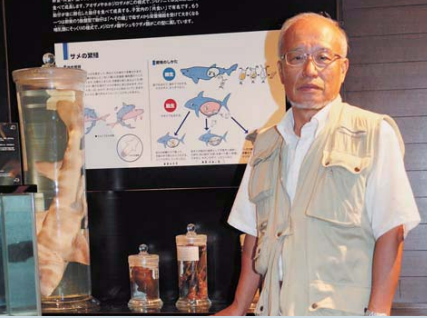
——望まれる沖縄の海を守るための人材の確保と育成——

サメ・エイ類研究の第一人者である仲谷先生に、サメの不思議な生態や、財団との共同研究について語っていただきました。

仲谷 まず魚類についてお話ししますと、一つはヤツメウナギなどのアゴのない凹口類、それからサメ・エイの軟骨魚類、アジやサバなどの硬骨魚類の3つの大グループがあります。さらに軟骨魚類にはギンザメ、サメ、エイの3つのグループ

[なかや かずひろ]1945年千葉県生まれ。水産学博士。1968年北海道大学水産学部卒業後、同大学院修了。同大学水産学部助手を経て1984年北海道大学水産学部助教授。1987年～1988年米国・スミソニアン協会訪問研究員。2000年～2002年北海道大学水産学部教授。2002年～2005年北海道大学大学院水産科学研究科教授。2005年～2009年北海道大学大学院水産科学研究科教授。2009年(財)海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター研究顧問。日本板鰐類(サメ・エイ類)研究会会長。「沖縄海盆ならびに周辺海域の魚類」「日本産魚類図鑑」「サメの世界」「サメのおちんちはふたつ」などの著書の他、論文・総説など多数。

ブがありまして、1000を超え
る種類があります。この軟骨魚類の
中で、ギンザメはまったく別物な
のですが、サメとエイについては
見解が定まっていません。つまり、
サメとエイが同じものと考える人
とサメとエイは別物と考える人が
います。エイはサメの一部から出
てきたという説と、それぞれ別の
祖先がいてサメとエイが進化して
きたという2つの説です。この様
なことを研究するのが系統分類学
ですが、解剖して形の特徴を捉え
て分析する形態学と遺伝子を使っ
て分析する二つのやり方がありま
して、今まさに論争になっていま
るところです。



サメの繁殖に関する展示物の前に立つ仲谷先生。
沖縄美ら海水族館内の「サメ博士の部屋」

ように胎盤ができ、胎仔は胎盤を
通して母親から栄養をもらって成
長します。逆に胎生の中で一番原
始的なサメは、自分が持つている
卵黄だけで成長し、親と同じよう
な形になって産まれてきます。昔
はこれを卵胎生と言っていました。
今は単に胎生と言っています。

もうひとつ面白い子供の育て方を
するサメがあります。胎仔は最初は自
分のもっている卵黄で成長をするん
ですが、そのうちに卵黄を使い切
り、無くなってしまいます。する
と、今度は自分の口で周囲にあるも
のを食べ始めるんです。母親のお腹
の中です。自分の卵黄がなくな
ると、近くにある別の卵黄をパクパ
ク食べて、一番極端な例では、胎仔
は近くにある卵黄だけではなく、そ
の兄弟姉妹も食べてしまいます。サ
メには子宮が1対ありますが、一番
強い個体が生きて残り、片方の子宮か
ら1匹だけがこの世に誕生するんで
すよ。サメらしいというか、産まれ
る前から弱肉強食を経験しているの
ですから、そりゃあ強いですよな。

施設と資金と人の 3本柱が大切

先生は当財団の研究顧問でも
いらつしやいますが、当財団との
関わりについてお聞かせください。
仲谷 私が北海道大学の大学院生
のときですから昭和44、45年ぐら

に、系統分類から生物の形や構造
がどういう役割を果たしているか
という機能形態学の方にも興味
が広がってきて、この分野での仕事
もやってきました。

最初に興味をもったのは「シエ
モクザメ」です。俗にハンマーヘッ
ドと言われているサメですが、ど
うしてあんな頭の格好になったか
を調べてみました。その次にやっ
たのが「ダルマザメ」と言って30、
50センチぐらいの棍棒状のサメです。
深海のサメで面白い餌の食べ方を
してまして、クジラなど大きな
動物の体に噛みついて、アイスク
リームをスプーンで掬うようにし
てパクリと食べるんです。それで
解剖して、骨や筋肉がどういふ
うに働いているか、どの様に食べ
ているかということ調べてたわけ
です。大きなものに吸い付いて、
歯をむき出しにして噛み付いてグ
リッと体を回転させて、その部分
の肉をパカッと切り取るというこ
とが分かりました。

サメの多くは肉食ですが、プラ
ンクトンを食べるサメもいます。
ジンベエザメ、ウバザメ、それら
メガマウスザメ、この3種類のサ
メがプランクトンを食べています。
ジンベエザメ、ウバザメというの
は魚類の中でも1番目と2番目に
大きなサメですが、そういう大
型の種類がプランクトンを食べ

いですが、サメの研究用の標本が
全然なくて、サメは南のほうが多
いですから、沖縄に行つて採集を
するという事になったんです。
その当時、沖縄には美ら海の内田
館長がいまして、いろいろと助け
ていただきました。

サメは大きいですから北海道ま
で運ばせないので、今でもこちら
に来て解剖してデータを取らせて
もらったりしています。美ら海に
はすごい機材や設備がいっぱいあ
りますので、そういうものを使わ
せていただいています、共同研究もや
らせてもらっています。

最近ですと、メガマウスザメに
関する論文があります。メガマウ
スザメが実際に餌をどうやって食
べるかを調べたものです。メガマ
ウスザメは記録が少なく、実際の
海で観察された例も非常に少ない
ために、まったく分かっていませ
ん。そこで、骨の構造とか筋肉を
調べて、どれがどう働いて、どの様
に餌を食べているかを考察したん
ですが、その結果大変面白いこと
が分かりました。

メガマウスザメはウバザメやジ
ンベエザメと全然違う食べ方をし
ていたんです。ヒゲクジラはガバッ
と口を開いて、顎の下にある畝を
アコーディオンみたいに膨らませて
て、たくさん水と餌を取り込んで
で、水だけをヒゲの間から出して

ているんです。

メガマウスザメというのは、30
数年前に初めて捕獲されたんです
が、これまで世界中でも50例ぐら
いしかありません。日本では13例が
知られていて、その内の2頭が冷
凍標本として沖縄美ら海水族館(以
下、美ら海)にあります。世界的に
も大変貴重な標本ですので、美ら
海では近々生態展示用の標本とし
て公開を計画しているようです。

卵を産むサメと 子供を産むサメ

サメの特徴といいますが、他
の魚と大きく違うところはどのよ
うな点ですか。

仲谷 たくさんあります。まず軟
骨魚類と呼ばれているように骨格
が軟らかな軟骨で構成されていま
す。それから、硬骨魚類の場合
普通、鰓が鰓蓋で覆われていて鰓
孔は1つしかありませんが、サメ
の場合は鰓蓋がなく、5から7
つの鰓孔が直接体の横に開いてい
ます。また、硬骨魚類には基本的
に「浮き袋」があつて、中に空気
が入っていて浮力を保っています
が、サメには「浮き袋」がありま
せん。肝臓に油をたくさん貯めて
いて肝臓が「浮き袋」の役目を果
たしています。種類によっては肝
臓の重さが体の4分の1ぐら
いものがあります。深海に潜るとき

から餌を飲み込みます。メガマウ
スザメもそれと同じようなことを
やることが分かったんです。
ヒゲはありませんが、鰓孔の前に
ふるふると動く装置がありまして、
そこにプランクトンを引っ掛けて
水だけを出すというやり方です。
このほかには、内田館長や研究第
一課の佐藤圭一君と一緒にミック
リザメの摂餌の研究が進行中で、
結果が楽しみです。

最後に、今後の財団に対する
期待などありましたらお聞かせく
ださい。

仲谷 財団が管理する海洋博公園
にはいくつかの施設がありますが、
私は水族館のことしか分かりませ
んので、水族館を念頭においてお
話します。私が学生のときはジ
ンベエザメを飼うなどということ
は考えも及びませんでした。しか
し、美ら海はジンベエザメを飼う
という大事業を成功させて、世界
でも注目の水族館になりました。
これからもその勢いをぜひ発展さ
せてもらいたいと思いますが、そ
のためには、施設と資金と人材の
3本柱が大切です。水族館施設は
こんなに立派です。資金もこれだ
けのお客さんが入っているから大
丈夫でしょう。あとは、それに見
合うような人材が必要ですね。3本
柱のうち2本が立ってば悪いものな
しですが、2本が丈夫でも1本が弱

どは空気があると水圧の問題が出
てきますが、サメの場合は油です
から急激な高圧になつても、
一気に浮上してもそれほど影響を
受けません。

それから、「サメ肌」という言葉
がありますが、皮膚も他の魚と全
然違います。硬骨魚類は円鱗とか
桶鱗という鱗をもっていますが、
サメやエイ類は正式には桶鱗(別
名で皮歯)という鱗をもつていま
す。皮歯という字から分かるよう
に構造は歯と同じで、小さな歯が
全身に生えていてと言つても間違
いではありません。逆に、口にあ
る歯は体のウロコが大きくなった
ものと言つても良いでしょう。

サメの外形についてですが、外洋
を高速で泳ぎ回っている種類は流線
形をしています。中には海底にい
る種類のように餌を捕るときだけに
動く無精なサメも結構います。例え
ば「カスザメ」という平べったいサ
メは、砂に潜つて餌が近寄つてく
るのをジッと待っています。

それから、サメの大きな特徴の
一つに繁殖の仕方があります。硬
骨魚類は基本的に交尾をしません
が、軟骨魚類のサメやエイ、ギン
ザメは交尾をし、体内受精しま
す。そして、サメ類は卵を産む卵
生のサメと子供を産む胎生のサメ
に分けることができます。一番進
化した胎生サメでは、人間と同じ

ければ倒れてしまいます。
そこをとても心配していま
す。

弱い足を強化するには、
優秀な人材を集めることで
す。どんなことでも競争ま
なれば、考える人が勝ちま
すし、考えなければ負け組
になつてしまいます。優秀
な人材を適材適所に重用
し、プレインになつてもらつて、水
族館の将来像を考えてもらい、水族
館を引っ張つていってもらふこと
が大切です。現在も優秀な方々が
おられますが、美ら海をさらに発展
させていくためにも、優秀な人材が
もっと必要です。美ら海の将来を
担う優秀な人材の確保を強く要望
します。



沖縄美ら海水族館に保管さ
れているメガマウスザメ。
石巻港で西村嘉二氏撮影

※1.系統分類学
生物進化の観点から生物間の類縁関係
を調べ、系統的に分類、体系づける学問。

※2.メガマウスザメ
英名はメガマウス・シャーク(Megamouth
Shark=意味は「巨大な口のサメ」)。ネズ
ミザメ目メガマウスザメ科に属する1属1種
のサメ。全長6mにもなる大型種だが、生
態はまだよく分かっていない。

役者が作っていた小道具

仲嶺舞踊小道具店の代表者、仲嶺眞永さんは、十八歳で沖繩芝居の世界に入ってきた。五十年近く小道具づくりを続けている役者兼小道具職人です。「昔は芝居をやることは小道具をつくることでもあったんです」と仲嶺さん。かつては、芝居の一座に入ると、雑用のほか小道具づくりを教えられたといいます。

仲嶺さんが作っている小道具は、琉球舞踊以下、琉舞の古典舞踊や雑踊りなどで使われるもので、代表的なものに花笠、四つ竹、杖、万才笠、陣笠、バサラ、ムンジル笠、男女の扇、獅子頭、馬頭などがあります。もちろん、これらの小道具は常時作られているものではなく、ほとんどが注文生産になります。

小道具の素材はほとんどが竹や木、厚紙や布などで、作業場にはそれらを切る、削る、曲げる、貼るための道具が揃えられており、まるで木工所のような雰囲気が漂っています。

直径は被る人の肩幅

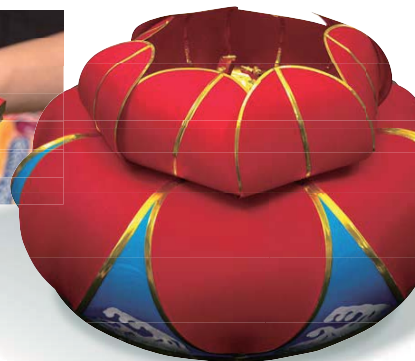
琉舞の小道具と言えば艶やかな花笠が目に見え、浮かんできます。花笠は伊野波節や四つ竹、本嘉手久節など、古典舞踊の踊りの踊り手が被る笠です。南国沖縄



を固定するガンシナ（俗称）を備え付け、それに頸紐を結びつけます。紐は肌を傷めないように筒状に縫ったものに綿が入られています。さらに、笠の上部に雄しべ雌しべのある花びらを取り付け、最後に金縁を施して完成します。一つの花笠が完成するまでに約一週間かかります。



(上)「手先が器用なこと、踊りを知っていることが大切」と語る仲嶺眞永さん。劇団・眞永座の座長でもある。
(下)「竹の扱いと外から見えないところに気をつけている」と語る小道具師の濱島俊勝さん。



(上)四つ竹、相思竹・相思板とも表記される。金箔で縁取りされたものもある。
(右)花笠。かつては平たいものだったが、明治期に入って現在の形になったといわれる。

沖繩の色・形

花笠立と四つ竹

優雅な舞を引き立てる小道具

を象徴する花・アカバナ（ハイビスカス）を連想させる形で、真っ赤な八枚の花びらの間には、沖縄の空と海をイメージした鮮やかな青に白い高波がデザインされています。

その花笠づくりは、骨組みとなる竹材

沖縄の伝統芸能である琉球舞踊にはいろいろな小道具が使われています。中でも花笠や四つ竹などはよく知られています。しかし、それらが、どこでどのように作られているかはあまり知られていません。那覇市松尾の仲嶺舞踊小道具店を訪ね、その製作現場を見せてもらいました。

取材協力／仲嶺舞踊小道具店

づくりから始まります。花笠に使う竹は宮崎県産の孟宗竹で、節の間隔が30〜40cmの長めのものを使います。竹は皮の部分を使うため、内側の肉の部分を削り取って1.5〜2cmくらいの厚さにし、幅1.5〜長さ80〜84cmに仕上げます。これが骨組みの竹材になります。

難しいのは竹材の成形で、仲嶺さんはそのためにアルミ製の金型を考案。その金型に竹材をあてがい、弱い火で焙りながら徐々に曲げていきます。その際、曲がるところに節がこないようにするのがコツです。花笠の直径は48〜50cm、深さは約16cm。直径は笠を被る人の肩幅、深さは踊り手の顔がほどよく見える深さにしています。これらを基準に竹材の長さを決め、最初に笠の縁となるリングを作り、四本組みにした竹材の端を強い綿糸や針金で固定させて八角形を作り出します。

骨組みができると、赤い輪子の生地を使って布張りを行います。生地が薄いために骨組みから糊がはみ出さないように塗るのがコツ。また、花笠の赤い布の部分は緩やかな独特の窪みを設けています。これはくぼみ張りといい、竹材を折らないように布を上下に強く引つ張りながら形を整えていきます。

笠の外側の部分ができたら、内側に頭のように、仲嶺さんなりの工夫を凝らしています。数年前には、元役者だったという人から、沖縄戦のときも肌身離さず持ち歩いていたという「ハチマチ」の復元を依頼され、「ハチマチ」づくりにも挑戦しました。分解してその構造を調べ、文献を漁り、それらを参考にしながら作り上げ大変喜ばれたそうです。



(上)琉球舞踊がイメージされる紅型、花笠、四つ竹。
(下左)ガンシナの骨組みと布で巻いたもの。
(右左)竹材を金型に固定しているところ。二日間固定して形を馴染ませるとのこと。
(右右)ハチマチ。沖繩芝居では赤は里之子(サトメシ)、黄色は親雲上(ペーテン)、紫は三司官(親方ウエーカタ)とされている。



います。四つ竹そのものは二片の竹ですが、片手に二片、両手で都合四片の竹を持つことから四つ竹になったといわれています。

一片の竹の長さは約10cm、横幅約4cm、厚さは約7〜1cm。二片の竹を合わせると音が出る部分が表、指で持つ部分が裏で、表は竹片が良く合わさるように丸みをもたせています。また、表は黒色、裏は紅色に仕上げ、紅や紅白の房のついた紐をつけます。花笠にしろ四つ竹にしろ、道具は踊り手に馴染んでこそいい道具です。だから「仲嶺さん、踊り手が使いやすい

います。四つ竹そのものは二片の竹ですが、片手に二片、両手で都合四片の竹を持つことから四つ竹になったといわれています。

りした濱島俊勝さん(三六)が、小道具のほとんどを手掛けるまでになっています。一使う人の一部になれるようなものを作っていきたくですね」と語る濱島さん。沖縄の伝統芸能を支える大切な物であり、しっかりと守ってほしいという技術です。

※1ガンシナ

女性が荷物を頭に懸けて運搬するさいに使っていた輪型の敷物、多くは稲わらで作られていた。

※2ハチマチ(帯)

琉球王府時代に士族も着いた一種の冠。十五世紀、尚書王が冠服の制度を定めて以来、位階に応じた色の帕(はちまき、冠を被るように規定された。

【国営沖縄記念公園（海洋博公園）】

海洋博公園管理センター 遊覧車の園内ガイド

遊覧車による園内散策を、海洋博公園の新しい魅力の一つに



走りながらコース途中の施設や見所を紹介

園内をあますことなく楽しめる

海洋博公園の総面積は約71.6ヘクタール。南国特有の色鮮やかな花々や冬でも緑豊かな木々に囲まれ、コバルトブルーの海が隣接する園内は、沖縄美ら海水族館や熱帯ドリームセンター、おきなわ郷土村といった施設の他、潮風を感じながらゆったり散策を楽しめる海岸遊歩道や子供たちが遊ぶながら緑に触れあえるパンコの森など多くの見所があり、それらを歩いて見て廻るには時間がかかります。そんな広い園内をあますことなく楽しむなら、園内を走る遊覧車がお勧めです。「デイゴ」「ハイビスカス」「ジンベエザメ」「ナポレオンフィッシュ」などの花の名前や魚の名前がついた遊覧車は、園内に13箇所ある遊覧ポイントと起点に「水族館・エメラルドビーチコース」「熱帯ドリームセンター・植物園コース」「熱帯ドリームセンター・夕陽の広場コース」の3コースでお客さまを案内します。一日周遊券を利用すれば、終日、何度でも遊覧車に乗ることができます。

きめこまやかな点検・整備

遊覧車は海洋博公園の開園当初から、バッテリーで動く電気自動車が使われています。近年、環境問題などでエコカーが注目を浴びていますが、海洋博公園の遊覧車はその先駆けです。「遊覧車は3ヵ月、6ヵ月、12ヵ月の



コースや所要時間を説明

定期点検・整備を行っています。新型になって故障が少なくなっています」と整備担当の阿波根昌昌さん。特に電気系統とブレーキまわりに注意を払っています。定期点検の他、運転手自身が日常点検も行っており、園内の運行中の故障はほとんどないとのこと。運転手はそれぞれ使用する車が決まっていますので車には特別な愛着があり、清掃はもちろん毎朝の点検も念入りに行っています。また、園内には坂道や十字路が数多くあり、常に前後左右の安全確認、早めのブレーキを徹底しています。

「園内案内ガイド」を作成

営業課では安全運行を第一として、お客さまに楽しく利用していただけるか、公園を楽しく利用していただけるか、を基本姿勢に、特に運転手の接客の仕方に注意を払っています。「対応の仕方一つでイメージが変わってきますからね。基本は一人ひとりに対する丁寧な対応です」と仲間敏剛さん。毎朝、「おはようございます。いらっしやいませ」の挨拶の訓練のほか、接客に関する情報交換などをを行っています。

「年輩の方、ご家族で来られている



お客さまの質問に答える運転手



ポスターやチラシを貼って公園内のイベントを紹介

方、若いグループなど、いろいろな方がいらっしやいますので、誰とでも上手にコミュニケーションがとれるように努めています」と営業課の新垣晋作さん。この他、営業課では園内のどこに何があり、どんなことが楽しめるかなど、お客さまの質問にもすぐに答えられるように、運転手用の「園内案内ガイド」を作成しています。「お客さまのその日の気分、体調、話し方などで判断して楽しい会話ができるように努めています」と川上将次さん。同じく運転手の八尋祥泰さんは「時間を気にされる方も多く、お客さまのご希望にあわせて、限られた時間で楽しんでいただける施設や見所などを案内するように心がけています」とのこと。乗車中はお客さまとの会話を大切に、園路沿いの花々や木々、お勧めの絶景ポイントなども紹介しており、より楽しんでもいただけるよう気を配っています。お客さまとの会話の中では、逆にお客さまから沖縄に関する情報を教えられるなど、勉強させられることもあるといいます。また、遊覧車自体に興味を持たれる方や、車から降りたがりな方、お子さんなどいらっしやるそうです。

運転手のレベルアップ

運転手は、お客さまのどんな質問にも答えられるように、利用時間や料金、各施設で行われているイベント情報など、園内に関する多岐にわたる情報を把握しておかなければなりません。「園内案内ガイド」により、基本的なマナーやガイドの知識を得ることができますが、お客さまに分かりやすいように、楽しんでもらえるようにと、話し方や説明の仕方にも工夫を凝らしています。また、植物や魚に関する知識など、それぞれ個人的な目標を持つて運転手としてのレベルアップを図っています。さらに近年は中国、台湾、韓国などからの観光客が増え、英語によるコミュニケーションが必要となるよう、園内の施設名や案内に必要な英語力の習得にも努めています。

平成21年度の公園入場者数約337万人でした。このうち遊覧車の利用者は約17万1千人で、遊覧車の利用率をもっと上げることが営業課の課題になっています。「時速20キロですから、ゆっくり見れば、いろんな公園



上：整備担当の阿波根昌昌さん
中：運転手の川上得次さん
下：運転手の八尋祥泰さん

の表情が見えてきます。遊覧車でないので見ることのない景色もあります。植物園コースや夕陽



降車の際も笑顔であいさつ



無線で連絡中の八尋さん

の広場コースには、眺めがよく四季折々の花々が楽しめる所がたくさんあります。そういう場所やポイントをもっとアピールしていきたいと思っています」と仲間さん。遊覧車による園内散策を、海洋博公園の新しい魅力の一つにしたいと語ってくれました。

「亜熱帯性動植物に関する調査研究」

フウランの保護と活用



ラン調査(フウラン自生地にて)



沖縄産のフウランの開花状況

フウラン(*Nothofila jalcana*)は、沖繩に自生するラン科植物の一つで、夏に涼しげな白い花を咲かせ芳香があること、さらには葉や根にいたるまで変異が多いことなどから、昔から園芸的にも愛でられてきました。その反面、園芸用の採取などにより



ラン調査(無菌培養室にて)

現在では絶滅危惧植物として指定されています。

当財団では、保護育成や、さらに産業への貢献へつなげるために、フウランの調査研究を行っています。

生息地を知るためには本来の姿である自生地での調査が欠かせません。フウランは今では希少となつてしまつたため、山地の奥深くでの調査となるのがしばしばです。過去の自生地調査から、周りにはクスノハカエド、リュウキュウクロウメモドキ、ガジュマル、ヤブニッケイ、ハマイヌビワ、サルカケミカン、クログク、アダンの典型的な石灰岩地の植物が生育していることが把握できました。また、本調査を数年間続けた結果、今年初めて開花したものに会え、またそれにより交配試験を行うことができました。さらには、他産地との比較調査で、沖縄産のフウランには花弁や距に紅色が差すという特徴も見いだされました。

また、フウランは熱帯性であるバンドラの仲間であるにも関わらず、寒



沖縄美ら海水族館にて展示中の宝石サンゴ

人工尾びれの耐久テスト

1976年より飼育してきたバンドウイルカ、フジは2002年に感染症、循環障害などの疾病により尾びれの約75%を失いました。フジに人工尾びれを装着し、運動機能の回復を図るため、2003年より株式会社フリヂストーンなどの共同プロジェクトが始まりました。人工尾びれは初期型人工尾びれバンド型、カウリング型、シェル型と開発が進んできました。現在は、カウリング型の改良型であるワイベックV、B、E、Cと名づけた型

で曲げ性能や耐久性の向上のための調査を行っています。

ワイベック型は本体素材に天然ゴム/EPDMブレンドを用いたことで、従来のカウリング型よりも耐久性が向上しましたが、長時間の装着により、長時間の装着により擦過傷が発生する欠点が見られました。そのため、擦過傷発生箇所には余裕を持たせた「ワイベック2」、水の抵抗をより少なくした「ワイベック3」と改良



人工尾びれ変遷

さに強いという利点を持つことから、フウランを用いた新しい園芸品種の作出も試みています。これまでに、同じバンドラの仲間である *Christensenia tubanica* と *Phalaenopsis* 属などの交配試験を行い、その中のいくつかで結果に成功し、フラスコ苗を得ることが出来ました。これらが生長し、開花株を登録したら新品種、さらには新属の作出に成功することになります。この交配試験で得られた種を用い、沖縄産のランとして日本本土を初め、東南アジア、世界へ広くPRしていきたいと思つています。

今後本調査研究を継続し、沖繩の野生ラン保護、さらには沖繩の産業発展へ寄与していきたいと考えています。

(瀬底 奈々恵)

宝石サンゴ類の保全に関わる研究

アークセサリーや置物として利用される「宝石サンゴ」は、沖繩の水深200-300m付近に生息しているサンゴの仲間です。宝石サンゴは古くからヨーロッパを中心に珍重されており、なんと25,000年前のドイツの遺跡からの出土もあるのです。日本で宝石サンゴ漁が本格的に始まつたのは明治時代に入ってから

(野中正法)

していき、軽量化するとともに、装着部分の開口部の切れ込み位置を前方に変更した「ワイベック4」は、長時間装着による擦過傷の発生を可能となり克服し、24時間の装着も可能となりました。次に、や柔らかいという問題があつた「ワイベック4」の内部心材枚数を増やしたワイベック5-1A、ワイベック5-1Bが開発されました。現在、この2種を用いた耐久テストを行っています。

また、フジの尾びれ部分と人工尾びれがじかに接する部分である緩衝材の耐久性についても12時間連続装着による比較試験を行いました。人工尾びれ自体の耐久性としては、従来まで比較してみました。

人工尾びれ自体の耐久性として、人工尾びれ内部の心材の枚数を変更した2種のワイベック5をフジに装着して、破損するまでの累計装着時間を比較してみました。

ですので、歴史はだいぶ新しいのですが、それでもずいぶん昔から人類は宝石サンゴを利用してきたわけですが、しかし、宝石サンゴに関する研究は驚くほど進んでおりません。特に日本では、明治時代に当時の農商務省の技師であった岸上博士が研究論文を残した後は、ほとんど調査研究がされていないのが現状です。

財団では、平成14年の沖縄美ら海水族館開館を機に、沖繩に生息している宝石サンゴ類三種(アカサングンロサンゴ、モイロサンゴ)の展示を開始し、その調査研究に取り組み始めました。乱獲のために減っていると言われる資源量を調査するため、漁獲されるサンゴの一部を標本として収集し、種類や大きさ、生息環境などの関係を調べました。その結果、種類によつて生息水深や水温が異なること、モイロサンゴは1gを超えるような群体がまだ生き残っていること、宮古・八重山など低緯度地域にはまだ比較的資源が残っていることなどが分かってきました。また多くの標本の中には、新種と思われるものもいくつか出てきています。現在、飼育下での成長、繁殖生態の解明などに着手し、資源の保全のための採取量の制限、禁漁期の設定などの提案ができるような科学的データの収集を進めています。

ワイベック4が600時間程度で破損したの比べ、ワイベック5は1000-2000時間を越える耐久性を持ち、ワイベック5-1Aが1144時間、ワイベック5-1Bが2124時間を越えても破損が見られませんでした。尾びれと人工尾びれが接する緩衝材の耐久性についても従来用いていた素材よりもフリヂストーンより試作品として提供された新素材が有効であることがわかりました。今後は人工尾びれごとの遊泳速度や長時間装着試験のほか、共同研究による力学的特性試験などにより総合的な性能の評価を行いながらさらに改良を図っていきます。

(小野英彦)



人工尾びれのフジ

【亜熱帯性動植物に関する普及啓発

平成22年度 亜熱帯緑化事例発表会

沖縄の緑化や緑化技術等について発表の場を設け、県民に広く公表するとともに、都市緑化の普及・啓発に資することを目的に「亜熱帯緑化事例発表会」を都市緑化祭の一環として浦添市でだこホールにおいて開催しました。今回は6件の発表があり、151名の参加が



発表会開催状況

ありました。発表会終了後に審査を行い、一般社団法人沖縄しまたて協会・技術環境研究所・武村栄子氏の「沖縄島貴重植物生育環境データベースの構築手法の開発」が最優秀賞に、その他2点が優良賞に選ばれました。各発表に対する関心も高く、会場からは活発に質問があがっていました。（篠原礼乃）

美ら海自然教室 「ホシズナの秘密を探る」

海の生物について学ぶ美ら海自然教室では、9月に「ホシズナたちの秘密を探る」をテーマに有孔虫について学ぶ教室を開催しました。教室では、有孔虫はサンゴ礁の岩や海藻についている生物であることや、その種類や生態について講義を行い、有孔虫を砂やナマコの消化物の中から探す体験や、顕微鏡を使って生きているいろいろな種類の有孔虫の観察を行いました。参加

ホエールウォッチング講習会

沖縄の海には冬から春にかけて毎年、ザトウクジラが回遊してきます。地球上で最も大きなほ乳動物であるクジラを間近で観察することができるホエールウォッチングは県内でも年々盛んになってきています。総合研究センターではホエールウォッチングの楽しみかたやザトウクジラの謎の多い生態について紹介する講習会を平成21年度より実施しています。

講習会はザトウクジラの回遊シーズンにあわせ、ホエールウォッチング従事者や一般の方を対象に行なっ



調査の様子



講習会の様子

います。講習内容は、ザトウクジラに負担をかけずにウォッチングを行なうためのルールやザトウクジラの様々な行動についての解説や沖縄近海での生態などのほか、ソングと呼ばれるザトウクジラ独特の鳴き声も聞いていただいています。また、ホエールウォッチングの楽しみ方として、これまで撮影された尾鰭腹面の写真によるマッチング体験を行いホエールウォッチングの新たな楽しみ方を提案しています。マッチングとは尾鰭の形や模様などの違いからその個体を特定することで、本調査は、同一個体の沖縄近海への来遊間隔年数や回遊経路及び資源量を推定するための大切な手法のひとつになっています。

者からは「身近な砂浜にこんな小さな命が生きている事に驚いた」「砂浜を見るとき人間以外の視点で見られるようになった」等の感想があり、小さな生物を興味深く観察していました。（篠原礼乃）



顕微鏡で見たホシズナたち



熱心に観察をする参加者たち

今後講習会を通し、ホエールウォッチングの継続的な発展のため、ザトウクジラに負担をかけないホエールウォッチングルールの指導や新たなホエールウォッチングの楽しみかたについて紹介し、沖縄の冬の海の魅力について紹介していきたいと思えます。（東直人）

【首里城に関する普及啓発】

ラジオ番組 「風に吹かれて首里城めぐり」

県民の悲願として平成4年に首里城正殿が復元されましたが、その歴史や魅力については、必ずしも全てが現世に伝わっていないというのが現状のようです。地元の方々はいっでも来園できるという意識もあり、近くにあるのに遠い存在となっている首里城。その首里城を親しみやすく紹介するラジオ番組として、当財団はFM沖縄で毎週木曜9時45～50分に「風に吹かれて首里城めぐり」という番組を放送しています。内容は、「首里城の瓦が赤いのはなぜ?」、「正殿にリスがいるって知っていますか?」など、首里城の歴史・文化のメカニズム、公園内で開催される企画展や歴史再現イベントの魅力に関する楽しい知識が聞けるので学べる構成

美ら島・美ら海こども工作室 「花の風を作って揚げよう」

「花の風を作って揚げよう」をテーマにランの花の形をした風を製作する教室を開催しました。事前に用意したパフィオペディラムやカトレア等花の特徴を捉え図柄にした8種類の風の見本から、各自が作りたい図柄の風を選び製作を開始しました。まず型紙に顔料で色づけを行い乾かした後、型紙に合わせて竹ひごを切り紙へ貼付け、糸を取り付ける等、各工程を楽しみながら取り組んでいました。参加者のほとんどが予定時間を過ぎても夢中になって製作していました。完成後は屋外にて風があがる仕組みやコツなどを解説し、風揚げを行いました。（篠原礼乃）



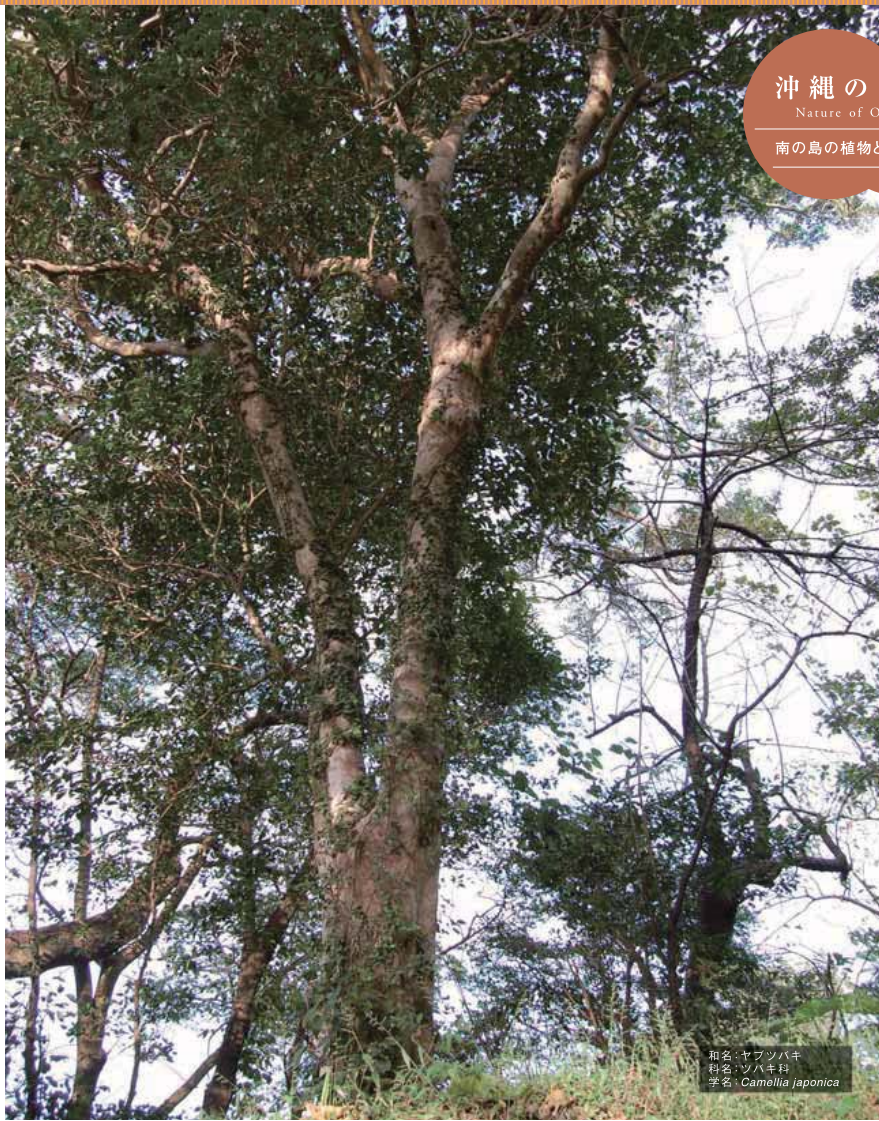
好きな色を塗った後竹ひごを接着

となっております。毎月末の放送では、財団職員が生出演して、リスナーからの首里城に関する質問・疑問への回答も行っています。また、首里城公園とFM沖縄のホームページからポッドキャストという過去の放送を配信しています。放送を聞き逃した方や県外・海外の方も聴取できるようにしており、月平均4〜50000件のアクセスがあるようです。毎週、首里城の建造物の特徴や、驚くような琉球王国時代のエピソードを楽しく紹介していますので、ぜひお聞きになっていただけたらと思います。（上江洲安亨）

○風に吹かれて首里城めぐり
ポッドキャスト
<http://blog.fnohinawa.co.jp/shurijo/podcast/>



生放送中、財団職員がリスナーからの首里城の疑問に答える風景



和名: ヤブツバキ
科名: ツバキ科
学名: *Camellia japonica*

ヤブツバキ

シリーズ 沖縄の犬木 ①①

ヤブツバキは、山地の林内に生育する常緑高木で本州青森以南、四国、九州、沖縄島等の琉球列島、朝鮮半島の西南端、中国の四川省、山東省、江西省に分布します。

ツバキの和名は葉が厚いことから厚葉木(アガ)が抜けたこと由来する説や、葉に光沢のあることから艶葉木(ツツ)という説等があり、花は、主に赤色でまれに白い花が咲きます。本種は、公園樹、庭木、防風林等の他、材は堅く緻密で磨くと美しい艶が出るため、家具や玩具などの工芸品に用いられます。その種子からとれる油は古来より食用、燈油になる他、化粧、薬としても利用されてきました。

沖縄県本部町伊豆味の山中には、沖縄本島で最も幹回りが太く樹高の高いヤブツバキが生育しています。このヤブツバキは、山の斜面の中腹付近の小さな平地に生育しています。樹の高さは約10m、幹は周囲13.6m、沖縄椿協会は、樹齢200年以上であると推定しています。

近くの方によると、「このヤブツバキは、屋敷を囲む石垣の後方に自生していた。周辺にも多くのヤブツバキが自生していたが、田畑の開墾や採取等により姿を消していった。旧正月頃には満開になり、正月飾りとして室内に花が飾られ、また、結実した種子は多くの人が持ち帰った」といいます。

その後、播種されたヤブツバキは、畑等の防風林、民家等の庭木として利用されてきたことが想像できます。

近隣の民家や畑付近では、今でもヤブツバキを見ることができ、近くの民家の庭先ではこのヤブツバキを親とする50年になる木が育っています。(上原マリ子)

シリーズ 沖縄の希少動植物 ①①

植物 ヤブミョウガラン

沖縄本島北部、石灰岩地の林床に生育するラン科植物です。常緑の多年草で茎は匍匐し、ヤブミョウガに似た葉を互生させ、高さは花序を含め70cm程になります。総状の花序は頂生し、多数の花を数個ずつ順次咲かせていきます。沖縄の地生ランの中では大型ですが、花は地味です。自生地は、山の斜面と石灰岩に囲まれた薄暗く風通しが悪い場所で、トウゾクモドキ、アオノクマタケラ等の草本植物と混生しています。また、周



和名: ヤブミョウガラン
科名: ラン科
学名: *Goodyera fumata*
レッドカテゴリー: 絶滅危惧IA類(沖縄県)、絶滅危惧IA類(環境省)

辺にはリュウキユウガキ、オキナワサルトリイバラ、ナガミボチウジ、ヤブニッケイ、クロツグなどが見られます。本種はジャワ、タイ、スリランカ、台湾、中国南部に自生し、沖縄は分布の北限で、日本で唯一の産地とされています。もともと自生地と個体数が限られていることから、園芸用の採取、自生地の開発等での減少が懸念されています。(天城道)

動物 タイパトノメ

メガネモチノウオ

ペラ科の中では世界最大の魚類で、全長は2mほどにもなります。通称名ナボレオンフィッシュとして良く知られ、その特徴である頭部のコブは体の大きなオスにだけ見られ、逆に若い個体はコブがなく体色も薄い緑色で違う種のように見えます。縄張り意識が強い種であり、大型個体と若い個体との争いが起きないために、このよう

な体型や体色の違いがあるのだといわれています。かたい殻を持つ甲殻類や貝類などを好んで食べるため、喉の奥に嚙頭歯と呼ばれるすりつぶす歯を持ち、これを使って餌を噛み砕いて食べます。魅力あるサンゴ礁域の魚の代表ですが、近年大型個体が減少しています。(当真英之)



▲メガネモチノウオ(成熟オス)
◀咽頭歯



和名: メガネモチノウオ
科名: ペラ科
学名: *Cheilinus undulatus*
方言名: ヒロサ
レッドデータカテゴリー: 絶滅危惧II類(沖縄県)



蚕かいこの由来



むかしむかし大昔、戦いくさがあつたそ
うです。

それで、その戦に負けそうになつた
大将が、「敵方の大将の首を取ってき
た者には私の娘を嫁にやるぞ」とみ
んなに呼びかけたそうです。

けれど、家来達はお互いを見合わ
せて誰も動こうとはしませんでした。
ところが、その場にいた馬が突然走
り出して敵方へ向かっていきました。
そして、しばらくして、その馬が敵の
大将の首をくわえて戻ってきたの
で、大将や家来達はひどく驚きまし
たが、戦に勝利したのでみんな大喜
びでした。

特に喜んだ大将は、褒美ほうびとして、馬
にたくさんのご馳走をあげました
が、馬は首を振っていつこうに食べ
ようとはしませんでした。
それを見た大将の娘が、「ターリー

(お父様)、ターリーは敵の大将の首
を取ってきた者には私を嫁にするこ
とおっしゃいました。その馬はそれを
望んでいません。だから、私はその馬と
一緒になつてもいいと思います」と
言いました。

父親は、「確かに言ったが、それは
家来達に向かつて言ったことだ。ま
さか馬が敵の大将の首をとつてくる
などと思ひもしなかつた。ましてや、
娘と馬が夫婦になるなんて考えられ
ないことだ」と答えました。

しかし、時間がたつにつれて、娘は
馬をかいがいしく世話をするように
なり、馬もよけいに娘になつてい
きました。

それを見ていた父親は、『このま
までは大変なことになる』と思ひ、娘に
あきらめさせるために、家来達に命
じてその馬を殺させ、その皮を剥はぎ

取つて木の枝に下げて干してしま
ました。

娘はその皮を触りながら、馬の死を
悲しんでいました。すると、そこへ大
きな風がブワツと吹いてきて、皮が
娘の体を包んだかと思うと空高く飛
んでいってしまいました。

飛んで飛んで、降りたところに桑の
木がありました。やがて、その皮から
たくさんの虫が湧き出てきて桑の
葉っぱを食べるようになり、繭まゆを作
るようになりました。

それが蚕の始まりだそうです。この
馬は神からの使いだったかもしれま
せん。

資料提供／NPO法人沖繩伝承話資料センター



海洋博公園管理センター

公園全体で遊ぶ

新春果報でーびる

沖縄らしいお正月を体感できる「新春カリーステージ」や、「カープヤー(嵐)体験」、「干支にまつわる工作教室」など家族そろって楽しみたいだけイベントを実施します。

- 1月1日(土)～3日(月)
- お問い合わせ/業務課
TEL:0980-48-2741

場所 海洋博公園 無料



第32回海洋博公園全国トリムマラソン大会

1月16日(日)

- ※申し込みは終了しました。
- お問い合わせ/業務課 TEL:0980-48-2741

場所 海洋博公園内・他 観覧 無料

第6回美ら海花まつり

ジンベエザメやマンタ、ヤンバルクイナの親子などを鮮やかな花で表現。草花にちなんだ体験イベントも開催。暖かい沖縄の冬を花いっぱい公園で楽しめます。

- 1月29日(土)～2月27日(日)
- お問い合わせ/業務課 TEL:0980-48-2741

場所 海洋博公園 無料



生き物とふれあう

冬休み マナティーしく体験

- 12月24(金)～26日(日)・1月1日(土)～3日(月) 16:30～17:15
- 申込方法:当日抽選(定員20名/日)
- 受付時間:15:30～16:25
- 抽選:16:25
- 受付場所:マナティー館前
- 参加条件:小学生以上(小学生は保護者同伴)
- 保護者も定員に含む
- 車イスご利用の方や、障がいのある方で参加を希望される場合は、事前に下記までご連絡下さい。
- お問い合わせ/海獣課 TEL:0980-48-2748

場所 マナティー館 無料



冬休み イルカ学習会

- 12月25日(土)～1月2日(日) 16:20～17:00
- 定員:なし(場所は40名程度参加可能)
- お問い合わせ/海獣課 TEL:0980-48-2748

場所 イルカラグーン周辺 無料



春休み イルカ学習会

- 3月26日(土)～4月3日(日)
- 定員:なし(場所は40名程度参加可能)
- お問い合わせ/海獣課 TEL:0980-48-2748

場所 未定 無料



黒潮探検自由観覧

- 12月18日(土)～1月10日(月) 10:00～14:30、17:30～18:30
- 利用時間延長日は～19:30(入場締切は終了30分前)
- 展示解説 10:30、11:30、12:00、12:30、13:30、14:00、18:00
- お問い合わせ/魚類課 TEL:0980-48-2742

場所 沖縄美ら海水族館 黒潮探検コース 入館料のみ



干支水樽

2011年の干支、「うさぎ」にちなんだ海の生き物を紹介。口元や歯がウサギに似ていることから英語でラビットフィッシュと呼ばれるアイゴの仲間や、真っ白な貝殻に黒い軟体部を持つウミウサギイを展示します。

- 12月26日(日)～1月3日(月)
- お問い合わせ/魚類課 TEL:0980-48-2742

場所 沖縄美ら海水族館 入館料のみ



ラビットフィッシュ(アイゴの仲間たち)

花と緑とふれあう

沖縄国際洋蘭博覧会

国内最大級のラン展。国内外から出展される1万点以上のランが美しさを競います。「ランで彩るアートの館」をテーマに華やかなランの装飾が会場を彩り、期間中は、ランに関する各種イベントも充実。南国沖縄で一足早い春が楽しめます。

- 2月5日(土)～2月13日(日)
- お問い合わせ/植物課 TEL:0980-48-3624

場所 熱帯ドリームセンター 入館料のみ



植物のクラフト作り

- 毎日開催
- 1月:オリジナルカレンダー作り、おうち飾りを作ろう
- 2月:しおりを作ろう、星の口を作ろう
- 3月:メッセージカードを作ろう、馬グラーを作ろう!
- ※団体(10名様以上)でご利用の際は、事前にご連絡ください。
- お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 場所 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料 TEL:0980-48-3782



美ら海自然教室

フィールドで見つけることのできる動植物やその標本を、身近な道具や顕微鏡等を用いて観察をします。そして、生物の不思議や面白さ、観察のしかた、生態系や環境の重要性などを紹介します。

- 講師:(財)海洋博覧会記念公園管理財団 職員、または有識者
- 料金:無料

【サメの秘密を探る】

1月9日(日)

【深海サゴの秘密を探る】

1月30日(日)

【いろいろな生物の骨の秘密を探る】

3月12日(土)

【マンタの秘密を探る】

3月19日(土)



美ら海自然教室の様子

美ら島・美ら海こども工作室

サンゴ礁に棲む様々な生き物たちを主とした自然物を活用して、多様な玩具作りを行い、伝統的な自然物の活用方法の体得や創造性を養います。

- 講師:(財)海洋博覧会記念公園管理財団 職員、または有識者
- 料金:無料

【子供の牛乳パックエコクラフト:海の動物】

1月22日(土)

【子供のエコクラフト:蘭の花をつくらう】

2月12日(土)

調査研究・技術開発成果発表会

当財団が実施している調査研究・技術開発及び「平成21年度調査研究・技術開発助成事業」の成果発表会を行います。

2月及び3月(予定)

- 講師:平成21年度調査研究・技術開発助成事業実施者等
- 料金:無料



美ら海自然教室の様子

【お問い合わせ】総合研究センター普及開発課 TEL 0980-48-2266

※各イベントの申し込みは、実施日の1ヶ月前より開始いたします。
※各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。最新情報や詳細はHP(kaiyohaku.jp)等でご確認して頂くかお気軽にお問い合わせください。

総合研究センター

沖縄の花・緑コーディネーター研修

沖縄に適した緑化植物や花の街づくりの知識に精通した人材を育成し、花と緑あふれる潤いのある街づくりを推進するための研修を実施します。

- 1月～3月 2回予定
- 対象者:沖縄の花・緑コーディネーター研修者(平成22年度募集済み)

ランの栽培研修

ラン科植物の愛好者の拡大を目的に栽培教室を通常年々実施します。

2月27日(日)

- 講師:(財)海洋博覧会記念公園管理財団 職員
- 対象者:ランの栽培研修者(平成22年度募集済み)



ランの栽培研修

首里城公園管理センター

首里城公園「新春の宴」 主催国営沖縄記念公園

- 実施日:平成23年 1月1日(土)～3日(月) 計3日間 8:30～17:00
- 場 所:首里城公園 御庭・下之御庭

【御座楽の演奏】

- 奏神門で毎朝8:30に行われている「御開門」後に王朝時代に演奏された御座楽を3日間毎日開催します。
- 実施日:1月1日(土)～3日(月)
- 時 間:8:30～8:50
- 場 所:首里城公園 御庭(雨天時の場合は、正殿内部) ※有料(入館料)



正月儀式「朝拝御規式」

【正月儀式 朝拝御規式】

- 第一部「子之方御拝」、第二部「朝之御拝」、第三部「大巡行」の3部構成で琉球王朝時代、国王、王妃、高官等の参列する中、執行されていた朝賀儀式を披露します。
- 実施日:1月1日(土)～2日(日)
- 時 間:10:00～11:50
- 場 所:御庭 ※有料(入館料)

【琉球芸能の宴】

- 新春を奏く琉球舞踊(古典舞踊、雑踊り)、地域の民俗芸能などを披露します。
- 実施日:1月1日(土)～3日(月)
- 時 間:12:30～17:00(4回公演)
- 場 所:下之御庭 ※無料

【国王・王妃出御】

- 御座楽の演奏とともに、国王・王妃が揃って正殿から出御します。
- 実施日:1月3日(月)
- 時 間:10:00～11:20
- 場 所:御庭 ※有料(入館料)

【お茶・甘酒の振舞い】

- 本席に振舞いコーナーを設け、紅型衣装を身に纏った女性よりお茶・甘酒が振る舞われます。
- 実施日:1月1日(土)～3日(月)
- 時 間:8:30～17:00
- 場 所:下之御庭 ※無料



お茶・甘酒振舞い

首里城公園企画展

うるしの王国 琉球IV ～青貝の輝き～

- 日 時/平成23年2月10日(木)～4月22日(金)
- 会 場/首里城公園 有料区域 南殿二階 特別展示室

琉球王国時代に中国皇帝や徳川将軍、大名に献上された美しい螺鈿の漆器の展示を通して、琉球漆器の技術の高さを紹介します。



【お問い合わせ】首里城公園管理センター TEL 098-886-2020

※各イベントは内容の変更や中止となる場合がございます。最新情報や詳細はHP(ok-park.jp)等でご確認して頂くかお気軽にお問い合わせください。